

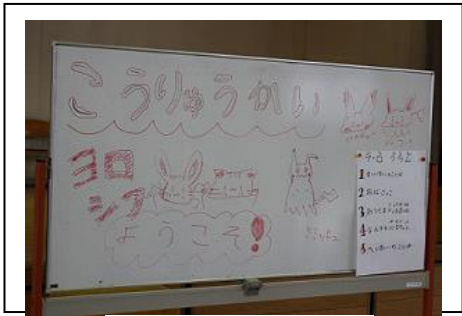
## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	宗谷管内 稚内市
取組事項（テーマ）	アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの充実
地域の実情と取組のねらい	幼保小の円滑な接続のための具体的な方向性について話し合い、交流することにより、相互の現状の理解を深めることをねらいとする。
取組内容	<p>日時 10月1日（金） 場所 稚内市立稚内港小学校</p> <p>市内の幼児教育施設及び小学校の教員が小学校入学前後の取組等を語る場として学習交流会を開催。20名が参加し、グループに分かれてテーマに基づき、交流を実施。</p> <p>内容 1班…小学校入学前後の取組等を語る場 （アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムについて家庭との連携の取り方、昨年度の交流会の内容の実践報告、幼保小で統一して取り組みたいこと、小学校入学までに取り組んでほしいことなど） 2班…行事の取組方、日常生活での様子の交流 （運動会の取組方について、コロナ禍の中での生活） 3班…気になる子どもへの支援方法等を語る場 （気になる子どもへの支援方法、保護者への対応等）</p>
取組に主として携わった者(所属/人数)	小学校(校長、教諭)、幼稚園(教諭)、保育園（保育士）計 20名
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で幼保小の教員が顔を合わせる機会が減っている中、互いの率直な意見を交流し、現状に係る共通理解を図ることができたことから、今後も継続した交流を実施していく。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマがグループごとに決まっていたので、交流内容が焦点化された一方、交流したい内容を十分に伝えることができない点もあったことから、交流会の形態等を工夫する必要がある。</li> </ul>




## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	宗谷管内 利尻富士町
取組事項（テーマ）	利尻富士町特別支援教育連携協議会
地域の実情と取組のねらい	心身に障害のある児童及び生徒の適切な就学を図ることを目的としており心身に障害のある児童及び生徒について調査・検査を行い、適正な教育支援を行うための資料及び判定書を作成している。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校では特別支援学級に在籍している、又は特別支援員が配置されている児童生徒について交流する。</li> <li>・教育委員会では就学時知的発達スクリーニング検査の報告をする。</li> <li>・保育所では教育委員会で報告のあった知的発達に偏りの可能性のある児童について交流する。</li> <li>・調査内容では主に家族構成やその家族との個人面談や親が児童にどう向き合っているかの報告、成育歴、生活・学習の状況・課題、指導・支援の状況等を交流する。</li> <li>・交流した後に小学校、保育所、教育委員会等で今後の保護者への対応方法、検査等の方法、日程の調整等の協議を行う。</li> </ul>
取組に主として携わった者(所属/人数)	市町村教育委員会（次長 1 名、次長補佐 1 名、係長 1 名、主事 1 名）、関係行政担当者（福祉課長 1 名）、校長会代表（校長 1 名）、教頭会代表（教頭 1 名）、小中学校代表（特別支援コーディネーター 3 名）、医師（1 名）、学識経験者（校長 2 名）、その他、教育長が必要と認めたもの（言語聴覚士 1 名、福祉センター所長 1 名、保健係長 1 名、保育所長 2 名、保育士 2 名、小中学校教頭 2 名、高校教頭 1 名）計 23 名
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校、中学校、保育所の特別支援が必要な児童、生徒に関する調査等を小学校、中学校、保育所、教育委員会で共有することができ、児童・生徒の今後の支援方法等の協議を行いやすくなった。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校、保育所、教育委員会で連携して協議を行っているのが特別支援関係の児童生徒に対してのみであり、通常学級等に在籍している児童生徒に対しての連携がまだ難しいところがある。</li> </ul>

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	宗谷管内 利尻富士町
取組事項（テーマ）	保小交流
地域の実情と取組のねらい	保育所、小学校の様子や思いを交流し、協力・連携体制を築くことや子どもたちの成長をつなげていくことを目的に保小交流に取り組んでいる。
取組内容	<p>《保小交流》 令和2年度は感染予防のため実施できなかったが、例年、年3回の交流を行っている。保育所と学校でお互いの授業参観を行ったり、懇談会で児童の交流や保小連携について話し合う機会を持っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回目 5月下旬…小学校第1学年の授業参観&amp;懇談会 *3つのグループに分かれて、テーマに合わせて意見交流</li> <li>・第2回目 11月下旬…保育所の保育参観&amp;懇談会</li> <li>・第3回目 保育園児（次年度就学児）の学校訪問 *次年度第6学年となる第5学年との交流と学校見学</li> </ul> <div style="text-align: right;">  <p>【第5学年との交流】</p> </div>
取組に主として携わった者(所属/人数)	小学校教職員10名 保育所職員 5名 計15名
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの様子を知ること、子どもたちの成長やがんばり、課題点等を共有することができる。</li> <li>・新入学時が安心して学校生活をスタートできる。また、新第6学年に向けての心構えを持つことができる。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所から小学校への「成長をつなげる接続」の在り方。 *保育所で大切にしてきたことや成長点を小学校でも引き継いでいくためのスタートカリキュラムの整備。</li> </ul>

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	宗谷管内 利尻富士町
取組事項（テーマ）	新入生体験入学
地域の実情と取組のねらい	<p>新入学予定の園児に小学校生活の体験を通して入学への希望を持たせる。          在校児童に新入学児童を温かく迎えようとする心構えを持たせる。          新入学予定の園児の保護者に対して、小学校の教育活動について理解と協力を求める。          保育所との教育連携を深める場とする。</p>
取組内容	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生に学校の様子が伝わり、楽しんでもらうための会を第1学年が話し合い企画する。</li> <li>・企画した内容の準備と当日の役割分担を行う。</li> <li>・毎年、第1学年が学習したことをもとにした手作りプレゼントを渡している。</li> <li>・当日、お出迎えからお見送りまで、第1学年が中心となり進行する。</li> </ul> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>
取組に主として携わった者(所属/人数)	<p>小学校(校長・教頭・教務主任・第1学年担任)          保育所(所長・保育士)計6名</p>
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験入学を通じ、新入生は入学への期待感を抱いていた。また、第1学年との関わりで小学生のやさしさに触れ、安心感を抱くことができた。</li> <li>・第1学年の進級に向けた心構えを作ることができるとともに、上級生としての自覚と行動が芽生える取組となった。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートカリキュラムとして位置付けされていない。スタートカリキュラムの一環として教育課程に位置付けが必要。</li> </ul>

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	オホーツク管内 北見市
取組事項（テーマ）	北見市の幼稚園・保育園・小学校及び児童館等との連携
地域の実情と取組のねらい	北見市内幼稚園・保育園と小学校及び児童館等が連携し、年長園児が小学校へスムーズに入学し、学校生活を送れるよう実践交流を進めている。また、校区小学校から通所している児童館とも交流を進め、児童の学校と児童館での様子を交流し、指導の参考としている。
取組内容	<p>※ 令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、企画はしたものの中止した。令和3年度は【3】については実施を検討中。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 北見市（幼・保・小・児童館等）三者連携協議会打合せ会議の実施             <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）年間の行事の検討及び情報交流</li> <li>（2）参加者：私立幼稚園連合会長、私立保育園連合会長、市子ども未来部、市青少年課、市校長会、市教研幼年部、市教委事務局</li> </ol> </li> <li>2 第1回北見市三者協議会研修会             <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）時期 7月中旬</li> <li>（2）内容 市内幼保小の施設見学</li> </ol> </li> <li>3 第2回北見市三者協議会研修会             <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）時期 1月下旬</li> <li>（2）内容 ①講演会 ②幼保小・児童館等との交流会</li> </ol> </li> <li>4 市内保育園年長担当者との研修会             <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）時期 11月中旬</li> <li>（2）内容 保育園と小学校の円滑な接続についての講話                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児における発達障害</li> <li>・市内小学校のスタートカリキュラムの実践例の紹介</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol>
取組に主として携わった者(所属/人数)	市教育委員会(指導室主幹1名、係長1名、特別支援教育CO 2名)、市子ども未来部(係長1名)、小学校(低学年担任)、各認定こども園(年長担任)、各幼稚園(年長担任)、各保育園(年長担任)
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内幼保小・児童館等の代表が一堂に会し、情報交流ができる場を設定することの意義は大きい。</li> <li>・他の幼保小の状況を見学することで、自園の活動の参考となる。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1小学校に就学する幼保が複数あるため(場合によっては10園以上)、引継ぎにかかる時間と労力が膨大になる。</li> </ul>

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	オホーツク管内 訓子府町
取組事項（テーマ）	幼小の円滑な接続に向けた交流
地域の実情と取組のねらい	町内に認定こども園1園、小学校2校、中学校1校がある。こども園と小中学校、町が一体となり、幼小連携を図り、取り組みを推進することにより育ちと学びをつなぐことをねらいとする。
取組内容	<p>1. 園児の交流</p> <p>(1) 訓子府小学校第2学年との交流（12月）第5学年との交流（12月）居武士小学校触れ合い集会（12月）学校探検（2月）を実施し、小学校生活への円滑な移行を図っている。</p> <p>(2) 中学校第3学年と年長児との交流（12月）中学校運動会への参加（土曜日預かり保育参加）（ちびっこ集まれ）</p> <p>2. 教職員の交流</p> <p>(1) 幼小連携検討会議の開催～幼小の連携の在り方や交流、幼小接続の課題について協議・スタートカリキュラム・アプローチプログラムの編成。</p> <p>(2) 教職員の交流～検討委員会が主催し、幼小中の教職員の交流、懇談会を開催（令和3年からは、学校運営協議会（CS）が担当）</p> <p>(3) 教職員互助会レクリエーションでの交流・親睦</p> <p>(4) 認定こども園研究保育公開への参加</p> <p>(5) 小中学校の授業公開の参加</p> <p>(6) 小学校第1学年生活科の授業参加（こども園年長児担任）</p> <p>3. 引継ぎ</p> <p>指導要録や各種資料に基づいた引継ぎを実施している。オホーツク育ちの手帳の活用。</p> <p>4. 年長児保護者向け情報誌「いっぽ」</p> <p>就学前の不安や、悩みを軽減し、入学への準備に役立てる。（12月発行）</p>
取組に主として携わった者(所属/人数)	教育委員会教育専門員1名、小学校校長2名、小学校教員3名、認定こども園(園長1名、保育教諭2名) 計9名
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スタートカリキュラムの作成にあたっては、こども園と小学校教員と一緒に相談・検討しながら作成したことは、幼児・児童の発達を踏まえながら「ねらい」「身に付けさせたい力」を明確にすることができ、共通理解をして推進することができた。アプローチプログラムは、主に年長児担任が作成し、会議の中で意見を聞いたり、検討、振り返りを行っている。評価・改善を行い、次年度につなげている。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>検討会議担当職員の異動があると、共通理解を図りながら進めていくことが難しいときがある。</li> <li>幼児教育スタートプランの研修も合わせて、推進していく必要がある。</li> </ul>

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	十勝管内 帯広市
取組事項（テーマ）	「帯広市エリア・ファミリー構想」を柱とした八広地域の幼小連携
地域の実情と取組のねらい	<p>広野小学校及び八千代中学校区の八広地域エリア・ファミリーにある広野保育所（帯広保育事業協会）の卒園児は、全員が広野小学校に入学するため、広野保育所と広野児童保育センター、広野小学校、八千代中学校が連携した教育活動に取り組んでいる。CSや小中一貫教育の推進の基盤として、幼小連携が極めて重要な取組と考えており、円滑な幼小接続をねらいとして、幼児教育施設の保育方針、保育目標と小中一貫の教育目標に基づいたスタートカリキュラムを作成し、内容の充実を図っている。</p>
取組内容	<p><b>1 エリア・ファミリーとしての交流</b></p> <p>(1) 合同運動会          幼児教育施設の幼児と小学校の児童の発達段階に応じた活動や役割を設定し、合同練習や本番の競技に取り組むことにより、幼児と児童が互いに成長できる環境づくりに取り組んだ。</p> <p>(2) 交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学時の子どもの不安を軽減し、安心して入学できるよう、年長児と低学年の児童との交流学習を実施した。</li> <li>一昨年に、「オペレッタ鑑賞」、昨年と今年は「お花いっぱい運動」を実施した。</li> <li>月に1回、「八広の日」を設定し、①よい姿勢をつくる立腰の徹底、②ノーテレビ・ノーゲームの推進に地域全体で取り組んでいる。</li> </ul> <p><b>2 幼小中の接続を見据えたスタートカリキュラムの作成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼児期から一人一人の実態を把握するとともに、「目指す子どもの姿」を地域全体で共有し「地域とともにある学校」づくりを推進している。</li> <li>幼児期の生活や活動が、どのように学習へとつながっていくかを見通せるよう、発達の段階に応じたカリキュラムを作成している。</li> </ul> <div data-bbox="826 1126 1433 1547" data-label="Diagram"> <p>【スタートカリキュラムの全体構造図】</p> <p>この図は、広野小学校のスタートカリキュラムの全体構造を示しています。縦軸は「幼児教育施設」から「小学校」へとつながる流れを示し、横軸は「低学年（1, 2年生）」、「中学年（3, 4年生）」、「高学年（5, 6年生）」の3段階に分かれています。各学年ごとに、【目指す子どもの姿】、【幼児期の生活や活動】、【学習の目標】、【学習の過程】、【学習の成果】が示されています。また、【幼児教育施設】と【小学校】の連携が強調されています。</p> </div>
取組に主として携わった者(所属/人数)	市教育委員会(地域連携課2名)、小学校(P T A会長、副会長、校長、教頭、教職員)、中学校(P T A会長、副会長、校長、教頭)、保育所(所長、保護者会長、教職員)、児童保育センター(所長)、八広地域連合町内会(会長)、生涯学習推進委員会(委員長)、地域学識経験者(2名) 計30名
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学前に幼児と小学校とが交流による経験を通して、学校の雰囲気を感じることで、入学に向けての意欲や期待感を持つ様子が見られるとともに、保護者の入学に対する不安感を軽減することができた。</li> <li>小学校が幼児教育での保育の内容を把握し、一人一人の子どもの実態に合わせた指導について、スタートカリキュラムを作成し、小学校の学習に生かすことができた。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>義務教育9年間の学びの基礎となる幼児教育の内容の共通理解を一層図るために、教員同士の定期的な研修会を実施する必要がある。</li> </ul>

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	十勝管内 清水町																																												
取組事項（テーマ）	「清水町スタートカリキュラム」を活用した取組																																												
地域の実情と取組のねらい	清水町では、幼児教育施設と小学校における教育活動のねらいについて、共通する点や異なる点の共有が課題となっていたため、幼児教育施設と小学校の教育活動を可視化し、円滑な接続を図ることをねらいとし、「清水町スタートカリキュラム」を作成した。																																												
取組内容	<p><b>幼小合同によるスタートカリキュラムの作成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「清水町スタートカリキュラム」を作成し、幼児と児童の発達や学びの連続性を重視した教育課程の編成と改善に活用している。</li> <li>「清水町スタートカリキュラム」は、毎年、「清水ブロック幼保・小連携推進会議子ども交流部」を中心に見直しを行い、内容を更新するとともに、幼児教育施設と小学校、それぞれの教育内容について共通理解を図った上で、整合性と連続性を考慮した教育課程の編成につなげている。</li> <li>今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた活動について検討し、活動内容の変更を行った。</li> <li>「清水ブロック幼保・小連携推進会議子ども交流部」では、幼児期の教育の特質を踏まえながら、子どもにとっても意味ある幼保・小交流活動という視点を重視して、事業を年に数回展開している。事業においてもスタートカリキュラムを活用することで、各事業の目的を果たすことができた。</li> <li>今後も幼保・小の教育内容を結びつける「清水町スタートカリキュラム」の見直しを続け、一層の充実を図りたい。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="464 1160 1428 1630"> <caption>清水町スタートカリキュラム (R03)</caption> <thead> <tr> <th>領域</th> <th>10の空</th> <th>国語</th> <th>算数</th> <th>生活科</th> <th>体育・音楽・図画工作</th> <th>英語</th> <th>総合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校1年生 (4月第1週～第2週)</td> <td>○学校生活で出会う言葉や文字に対して好奇心をもち、理解しようとする。 ○自分の考えを自分の言葉で相手に伝えようとする。</td> <td>○しりとりなどの遊びを通して簡単なひらがなを学ぶ。 ○自分の思いを自分で相手に伝える。 ○挨拶・送迎・声の大きさについて学び、学校生活に生かそうとする。</td> <td>○簡単な数字を選びを通して学ぶ。 ○10までの数を数えたり書いたりする。</td> <td>○これまでの生活や遊びでの経験を小学校での学習につなげたり、生かしたりする。 ○学校探検を通して2年生と交流をもつ。</td> <td>○身の周りの動物や植物を観察し、自然に対する興味・関心をもち、 ○身近な人や地域の様々な場所に関心をもち、</td> <td>○ひらがなを学び、言葉や簡単な文を書く。 ○自分の考えや見つけたことをまとめて相手に伝える。 ○簡単な文やお話を音読する。</td> <td>○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。</td> <td>○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。</td> </tr> <tr> <td>小学校1年生 (4月第3週～第4週)</td> <td>○学校生活で出会う数や数量に対して好奇心をもち、理解しようとする。 ○簡単な数字を選びを通して学ぶ。</td> <td>○しりとりなどの遊びを通して簡単なひらがなを学ぶ。 ○自分の思いを自分で相手に伝える。 ○挨拶・送迎・声の大きさについて学び、学校生活に生かそうとする。</td> <td>○簡単な数字を選びを通して学ぶ。 ○10までの数を数えたり書いたりする。</td> <td>○これまでの生活や遊びでの経験を小学校での学習につなげたり、生かしたりする。 ○学校探検を通して2年生と交流をもつ。</td> <td>○身の周りの動物や植物を観察し、自然に対する興味・関心をもち、 ○身近な人や地域の様々な場所に関心をもち、</td> <td>○ひらがなを学び、言葉や簡単な文を書く。 ○自分の考えや見つけたことをまとめて相手に伝える。 ○簡単な文やお話を音読する。</td> <td>○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。</td> <td>○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。</td> </tr> <tr> <td>小学校1年生 (5月～7月)</td> <td>○学校生活で出会う数や数量に対して好奇心をもち、理解しようとする。 ○簡単な数字を選びを通して学ぶ。</td> <td>○しりとりなどの遊びを通して簡単なひらがなを学ぶ。 ○自分の思いを自分で相手に伝える。 ○挨拶・送迎・声の大きさについて学び、学校生活に生かそうとする。</td> <td>○簡単な数字を選びを通して学ぶ。 ○10までの数を数えたり書いたりする。</td> <td>○これまでの生活や遊びでの経験を小学校での学習につなげたり、生かしたりする。 ○学校探検を通して2年生と交流をもつ。</td> <td>○身の周りの動物や植物を観察し、自然に対する興味・関心をもち、 ○身近な人や地域の様々な場所に関心をもち、</td> <td>○ひらがなを学び、言葉や簡単な文を書く。 ○自分の考えや見つけたことをまとめて相手に伝える。 ○簡単な文やお話を音読する。</td> <td>○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。</td> <td>○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。</td> </tr> <tr> <td>小学校1年生 (8月～) 小学校2年生</td> <td>○学校生活で出会う数や数量に対して好奇心をもち、理解しようとする。 ○簡単な数字を選びを通して学ぶ。</td> <td>○しりとりなどの遊びを通して簡単なひらがなを学ぶ。 ○自分の思いを自分で相手に伝える。 ○挨拶・送迎・声の大きさについて学び、学校生活に生かそうとする。</td> <td>○簡単な数字を選びを通して学ぶ。 ○10までの数を数えたり書いたりする。</td> <td>○これまでの生活や遊びでの経験を小学校での学習につなげたり、生かしたりする。 ○学校探検を通して2年生と交流をもつ。</td> <td>○身の周りの動物や植物を観察し、自然に対する興味・関心をもち、 ○身近な人や地域の様々な場所に関心をもち、</td> <td>○ひらがなを学び、言葉や簡単な文を書く。 ○自分の考えや見つけたことをまとめて相手に伝える。 ○簡単な文やお話を音読する。</td> <td>○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。</td> <td>○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。</td> </tr> </tbody> </table>	領域	10の空	国語	算数	生活科	体育・音楽・図画工作	英語	総合	小学校1年生 (4月第1週～第2週)	○学校生活で出会う言葉や文字に対して好奇心をもち、理解しようとする。 ○自分の考えを自分の言葉で相手に伝えようとする。	○しりとりなどの遊びを通して簡単なひらがなを学ぶ。 ○自分の思いを自分で相手に伝える。 ○挨拶・送迎・声の大きさについて学び、学校生活に生かそうとする。	○簡単な数字を選びを通して学ぶ。 ○10までの数を数えたり書いたりする。	○これまでの生活や遊びでの経験を小学校での学習につなげたり、生かしたりする。 ○学校探検を通して2年生と交流をもつ。	○身の周りの動物や植物を観察し、自然に対する興味・関心をもち、 ○身近な人や地域の様々な場所に関心をもち、	○ひらがなを学び、言葉や簡単な文を書く。 ○自分の考えや見つけたことをまとめて相手に伝える。 ○簡単な文やお話を音読する。	○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。	○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。	小学校1年生 (4月第3週～第4週)	○学校生活で出会う数や数量に対して好奇心をもち、理解しようとする。 ○簡単な数字を選びを通して学ぶ。	○しりとりなどの遊びを通して簡単なひらがなを学ぶ。 ○自分の思いを自分で相手に伝える。 ○挨拶・送迎・声の大きさについて学び、学校生活に生かそうとする。	○簡単な数字を選びを通して学ぶ。 ○10までの数を数えたり書いたりする。	○これまでの生活や遊びでの経験を小学校での学習につなげたり、生かしたりする。 ○学校探検を通して2年生と交流をもつ。	○身の周りの動物や植物を観察し、自然に対する興味・関心をもち、 ○身近な人や地域の様々な場所に関心をもち、	○ひらがなを学び、言葉や簡単な文を書く。 ○自分の考えや見つけたことをまとめて相手に伝える。 ○簡単な文やお話を音読する。	○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。	○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。	小学校1年生 (5月～7月)	○学校生活で出会う数や数量に対して好奇心をもち、理解しようとする。 ○簡単な数字を選びを通して学ぶ。	○しりとりなどの遊びを通して簡単なひらがなを学ぶ。 ○自分の思いを自分で相手に伝える。 ○挨拶・送迎・声の大きさについて学び、学校生活に生かそうとする。	○簡単な数字を選びを通して学ぶ。 ○10までの数を数えたり書いたりする。	○これまでの生活や遊びでの経験を小学校での学習につなげたり、生かしたりする。 ○学校探検を通して2年生と交流をもつ。	○身の周りの動物や植物を観察し、自然に対する興味・関心をもち、 ○身近な人や地域の様々な場所に関心をもち、	○ひらがなを学び、言葉や簡単な文を書く。 ○自分の考えや見つけたことをまとめて相手に伝える。 ○簡単な文やお話を音読する。	○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。	○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。	小学校1年生 (8月～) 小学校2年生	○学校生活で出会う数や数量に対して好奇心をもち、理解しようとする。 ○簡単な数字を選びを通して学ぶ。	○しりとりなどの遊びを通して簡単なひらがなを学ぶ。 ○自分の思いを自分で相手に伝える。 ○挨拶・送迎・声の大きさについて学び、学校生活に生かそうとする。	○簡単な数字を選びを通して学ぶ。 ○10までの数を数えたり書いたりする。	○これまでの生活や遊びでの経験を小学校での学習につなげたり、生かしたりする。 ○学校探検を通して2年生と交流をもつ。	○身の周りの動物や植物を観察し、自然に対する興味・関心をもち、 ○身近な人や地域の様々な場所に関心をもち、	○ひらがなを学び、言葉や簡単な文を書く。 ○自分の考えや見つけたことをまとめて相手に伝える。 ○簡単な文やお話を音読する。	○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。	○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。
領域	10の空	国語	算数	生活科	体育・音楽・図画工作	英語	総合																																						
小学校1年生 (4月第1週～第2週)	○学校生活で出会う言葉や文字に対して好奇心をもち、理解しようとする。 ○自分の考えを自分の言葉で相手に伝えようとする。	○しりとりなどの遊びを通して簡単なひらがなを学ぶ。 ○自分の思いを自分で相手に伝える。 ○挨拶・送迎・声の大きさについて学び、学校生活に生かそうとする。	○簡単な数字を選びを通して学ぶ。 ○10までの数を数えたり書いたりする。	○これまでの生活や遊びでの経験を小学校での学習につなげたり、生かしたりする。 ○学校探検を通して2年生と交流をもつ。	○身の周りの動物や植物を観察し、自然に対する興味・関心をもち、 ○身近な人や地域の様々な場所に関心をもち、	○ひらがなを学び、言葉や簡単な文を書く。 ○自分の考えや見つけたことをまとめて相手に伝える。 ○簡単な文やお話を音読する。	○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。	○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。																																					
小学校1年生 (4月第3週～第4週)	○学校生活で出会う数や数量に対して好奇心をもち、理解しようとする。 ○簡単な数字を選びを通して学ぶ。	○しりとりなどの遊びを通して簡単なひらがなを学ぶ。 ○自分の思いを自分で相手に伝える。 ○挨拶・送迎・声の大きさについて学び、学校生活に生かそうとする。	○簡単な数字を選びを通して学ぶ。 ○10までの数を数えたり書いたりする。	○これまでの生活や遊びでの経験を小学校での学習につなげたり、生かしたりする。 ○学校探検を通して2年生と交流をもつ。	○身の周りの動物や植物を観察し、自然に対する興味・関心をもち、 ○身近な人や地域の様々な場所に関心をもち、	○ひらがなを学び、言葉や簡単な文を書く。 ○自分の考えや見つけたことをまとめて相手に伝える。 ○簡単な文やお話を音読する。	○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。	○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。																																					
小学校1年生 (5月～7月)	○学校生活で出会う数や数量に対して好奇心をもち、理解しようとする。 ○簡単な数字を選びを通して学ぶ。	○しりとりなどの遊びを通して簡単なひらがなを学ぶ。 ○自分の思いを自分で相手に伝える。 ○挨拶・送迎・声の大きさについて学び、学校生活に生かそうとする。	○簡単な数字を選びを通して学ぶ。 ○10までの数を数えたり書いたりする。	○これまでの生活や遊びでの経験を小学校での学習につなげたり、生かしたりする。 ○学校探検を通して2年生と交流をもつ。	○身の周りの動物や植物を観察し、自然に対する興味・関心をもち、 ○身近な人や地域の様々な場所に関心をもち、	○ひらがなを学び、言葉や簡単な文を書く。 ○自分の考えや見つけたことをまとめて相手に伝える。 ○簡単な文やお話を音読する。	○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。	○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。																																					
小学校1年生 (8月～) 小学校2年生	○学校生活で出会う数や数量に対して好奇心をもち、理解しようとする。 ○簡単な数字を選びを通して学ぶ。	○しりとりなどの遊びを通して簡単なひらがなを学ぶ。 ○自分の思いを自分で相手に伝える。 ○挨拶・送迎・声の大きさについて学び、学校生活に生かそうとする。	○簡単な数字を選びを通して学ぶ。 ○10までの数を数えたり書いたりする。	○これまでの生活や遊びでの経験を小学校での学習につなげたり、生かしたりする。 ○学校探検を通して2年生と交流をもつ。	○身の周りの動物や植物を観察し、自然に対する興味・関心をもち、 ○身近な人や地域の様々な場所に関心をもち、	○ひらがなを学び、言葉や簡単な文を書く。 ○自分の考えや見つけたことをまとめて相手に伝える。 ○簡単な文やお話を音読する。	○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。	○かたかなや漢字を学び、読んだり書いたりする。 ○発表や話し合いのルールを意識しながら、発表できるようにする。 ○読み聞かせや朝読書などを通して、読書に親しむ。																																					
取組に主として携わった者(所属/人数)	清水ブロック幼保・小連携推進会議子ども交流部(担当幼稚園教諭1名、担当保育園保育士2名、担当小学校教諭1名)、幼稚園(年長児担当教諭1名)、保育所(年長児担当保育士2名)、小学校(第1学年担当教諭2名) 計9名																																												
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼児教育施設と小学校の教職員が、「清水町スタートカリキュラム」を通して、互いの保育や教育活動の連続性を見通すことにより、子どもたち1人1人の望ましい成長・発達を促すための環境づくりの推進が図られた。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「清水町スタートカリキュラム」を活用した教職員間の共通理解を一層深め、幼児と保護者が安心して小学校に移行できるよう、継続的に取組の工夫改善を図り、幼保小の「段差の解消」に取り組むことが必要である。</li> </ul>																																												

【令和3年度「清水町スタートカリキュラム」(一部抜粋)】



## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	十勝管内 更別村
取組事項（テーマ）	幼児と児童の交流活動
地域の実情と取組のねらい	<p>更別村では、村立の更別幼稚園と私立のどんぐり保育園の園児が更別小学校に入学することから、どの幼児も、小学校生活に円滑に移行できるようにすることをねらいとして、更別幼稚園とどんぐり保育園、更別小学校第1学年の幼児児童が交流する機会を年3回設けている。</p>
取組内容	<p><b>幼保小合同の交流会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園児が安心して交流できるようにするため、更別幼稚園、どんぐり保育園、更別小学校を各1回ずつ交流会場となるよう計画した。</li> <li>・事前に、少人数の保幼小混合グループに分けるなど、グループ内の友達の名前と顔を覚えやすくすることで、互いの関わりを増やし、楽しく活動できるようにした。</li> <li>・保幼小混合グループ内で自己紹介をしたあとに、小学校第1学年の児童がリーダーの役割を担当し、活動の内容と順番を説明した。              [活動～①ぬり絵、②カプラ、③外遊具など]</li> <li>・活動後は、リーダーを中心としてグループごとに振り返りを行うとともに、次回の交流のめあてを確認し、グループ内で握手をして、「さようなら」のあいさつを行った。</li> <li>・終了後は、幼保小の教職員で活動の評価を行い、グループ内でやりたいことが言えなかった子どもや自分の思いを伝えることを苦手としている子どもに対する次回の活動の手立てを検討した。</li> </ul> <div data-bbox="986 846 1426 1420" data-label="Image"> </div> <p>【保幼小混合グループによる活動の様子】</p>
取組に主として携わった者(所属/人数)	<p>幼稚園教諭、保育園保育士、小学校教務主任（兼特別支援担任）、小学校教諭 計4名              ＊当日は、幼稚園長、小学校校長、教育委員会指導参事が参観</p>
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園児が、小学校第1学年の児童に親しみを持つことで、小学校生活への興味関心や期待感を高めるきっかけとなった。</li> <li>・小学校第1学年の児童が、園児のために自ら行動しようとする姿が見られるなど、園児との関わりを通して、児童の自立心を高めることができた。</li> <li>・幼保小の教職員が、幼児期と児童期における活動のつながりを見据えた引継ぎの充実を意識する機会となった。</li> <li>・幼保小の教職員が、特別な教育的支援の必要な幼児の実態について、共通理解を図ることができた。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児と児童との交流や合同事業の成果と課題を指導計画の工夫改善に生かし、活動の充実を図っていく必要がある。</li> </ul>

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	十勝管内 更別村
取組事項（テーマ）	幼児と児童の交流活動
地域の実情と取組のねらい	<p>更別村では、村立の認定こども園上更別幼稚園の園児が上更別小学校に入学することから、どの幼児も、小学校生活に円滑に移行できるようにすることをねらいとして、上更別幼稚園の5歳児と上更別小学校の全校児童が、交流する活動を年間通して実施している。</p>
取組内容	<p><b>1 年間を通した交流活動</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 運動会・学習発表会</li> <li>(2) 児童が七夕まつり</li> <li>(3) 花火行灯まつり</li> <li>(4) 一日防災学校</li> <li>(5) ハロウィン会</li> <li>(6) もちつき会</li> <li>(7) 生活科の授業への参加</li> <li>(8) スケート授業</li> </ol> <p>・幼児と児童が、交流活動における共通の体験を通して、幼児は、小学校の児童への憧れと小学校生活への期待感を持つこと、児童は、幼児と関わることで思いやりの心を持つことができるよう活動内容を設定した。</p> <p><b>2 教職員間の連携</b></p> <p>・園児が安心して小学校生活に移行できるようにすることをねらいとして、定期的に情報交換の機会を設け、①保育参観と授業参観などの相互参観、②園・学校だよりの交換などの情報交換、③村内教育研究会の開催、参加、④村教委園長・校長会議への出席、⑤カリキュラム編成の検討などに取り組んでいる。</p>
取組に主として携わった者(所属/人数)	幼稚園教諭、小学校各交流担当教諭、幼稚園長、小学校校長、教頭、教育委員会指導参事など 10名程度
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会が幼児と児童の互いの学びの場となるように、幼児が小学校の雰囲気を感じられるような集団設定や活動内容の設定を行うとともに、児童が幼児に教える役割を設定するなど、交流会を幼児と児童の発達段階に応じて工夫したことにより、ねらいの実現を図ることができた。</li> <li>・幼小の教職員による定期的な情報交換を通して、子どもの学びの連続性に向けて共通理解を図り、計画の工夫改善に取り組むことができた。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児と児童にとって、交流が意義のある学習となるよう、幼小が連携して各交流活動の目標を一層明確にして取り組むことが必要である。</li> <li>・教職員間の連携を推進するため、幼稚園と小学校の勤務時間の違いなどの共通理解を図り、連携の場の充実を図ることが必要である。</li> </ul>



【幼小連携で開催した学習発表会の様子】

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	釧路管内 弟子屈町
取組事項（テーマ）	町全体で行う幼児教育施設と小学校との交流
地域の実情と取組のねらい	<p>本町には町立保育園と幼保連携型認定こども園がそれぞれ1園あり、園児は町内の小学校4校へ入学することになる。入学先が複数の小学校に分かれたり、一園当たりの園児数が多くなかったりすることから、保育園及びこども園と小学校が交流の場を設定するのではなく、町内の園と小学校が一堂に会して交流する取組「ましゅうランド」を行っている。</p> <p>また、毎年継続して取り組むことにより、子どもが招待される側と招待する側の両方の立場を経験することで、自身の成長に気付くことをねらいとしている</p>
取組内容	<p>1 児童、園児の活動 町内の小学校4校の第1、2学年の児童及び2園の園児が町内の中心校である弟子屈小学校体育館に集まり、児童が各小学校において生活科の学習で準備したお店屋さんを開き、園児がお店屋さんを回りながら触れ合う。</p> <p>2 教師の活動（実行委員会） 各小学校、保育園及びこども園の担当者等から構成する実行委員会を組織し、取組内容や実施時期等を町内全体で共有しながら、運営するようにしている。</p> <p>【取組日程】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回実行委員会（5月）…業務分担の決定</li> <li>・第2回実行委員会（7月）…当日の内容や進行についての協議</li> <li>・第3回実行委員会（9月）…各担当からの説明、輸送バス運行計画の確認</li> <li>・前日準備、最終確認（11月）…弟子屈小学校体育館に各お店屋さんを設置</li> <li>・ましゅうランド実施（11月）</li> <li>・第4回実行委員会（2月）…今年度の反省と次年度の展望</li> </ul> <p>※実行委員会は、町研究所主催の研究大会や研究部会の終了後に開催している。</p>
取組に主として携わった者(所属/人数)	町校長会1名、町教頭会1名、町立小学校4名、認定こども園1名、保育園1名、計8名
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの児童が、「お店さんの役割がこんなに大変だとは思わなかった。園児として遊びにきたときは気が付かなかった」と振り返るなど、両方の立場を経験することで、児童が自身の成長を実感することができた。</li> <li>・園児が小学校生活への期待感を抱くとともに、普段関わることのない多くの人と触れ合うことで、人と関わる楽しさを感じることもできた。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本取組をより効果的に推進するために、保育園及びこども園、小学校で育成を目指す資質・能力について共有する場を設定したり、交流を効果的な引継ぎに繋げるために、交流において園児、児童を見取る視点を明確にしたりする必要がある。</li> </ul>



【ましゅうランドの様子】

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	根室管内 根室市
取組事項（テーマ）	域内の幼児教育施設と小学校による「引継ぎシートの共有化」及び「合同引継ぎ会」の実施
地域の実情と取組のねらい	<p>これまでの根室市の幼児教育施設と小学校の引継ぎは、各小学校が日程を決め、幼児教育施設を訪問して実施されており、引継ぎの内容が小学校ごとに違うため、幼児教育施設も対応に苦慮していた。</p> <p>根室市教育委員会では、これらの課題の解決を図り、幼児教育施設と小学校の円滑な引継ぎを行うため、「引継ぎシートの共有化」と「合同引継ぎ会」を実施した。</p>
取組内容	<p>【引継ぎシートの共有化】</p> <p>根室市教育委員会では、指導要録とともに、共通の「引継ぎシート」を作成し、市内の全小学校が共通の引継ぎを実施することができるようにした。シートは、幼児一人一人の状況を記入する「個人用のシート」、支援を必要とする幼児の「教育支援シート」の2種類とした。</p> <p>「個人用のシート」は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をベースとし、小学校におけるスタートカリキュラムに反映することができるようにした。「教育支援シート」は、小学校入学時に支援を必要とする就学児を対象とし、就学後、個別の支援計画の作成の参考となるよう、チェックボックス方式で簡単に記入できるようにした。</p> <p>【合同引継ぎ会の実施】</p> <p>根室市街地の小学校については、根室市教育委員会が会場を設定し、小学校の代表者と幼児教育施設の代表者の間で、就学児の引継ぎを一日日程で実施することにした。市街地以外の引継ぎについては、就学する子どもが少ないため、それぞれの幼児教育施設と小学校で日程調整を行って実施した。</p> <div data-bbox="1027 1066 1437 1290" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">【引継ぎの様子】</p> <p>○ 実施方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①根室市文化会館に幼児教育施設ごとのブースを設置する。</li> <li>②各ブースに小学校の代表者が参加して引継ぎを行う。</li> <li>③順番は引継ぎをする就学児の人数を考慮して決定する。</li> <li>④持ち時間は、20分程度（目安）とし、早く終了した場合はその場で順番を調整しながら進める。</li> </ol>
取組に主として携わった者(所属/人数)	市教育委員会(指導主幹1名、指導室長1名)、小学校(教頭、教務主任、特別支援教育コーディネーター等)、保育所(所長、保育士)、保育園(園長、保育士)幼稚園(園長、教諭)計18名
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「合同引継ぎ会」を1日日程で実施したことにより、幼児教育施設と小学校の負担が軽減された。</li> <li>・「引継ぎシート」を共通にしたことにより、幼児教育施設の負担が軽減されるとともに、より細かい内容の引継ぎができた。</li> <li>・「引継ぎシート」を活用することで、各小学校における個別の教育支援計画が充実し、就学児の小学校における早期支援を進めることができた。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「引継ぎシート」及び「スタートカリキュラム」をより充実させるため、幼児教育施設と小学校の連携を密にする必要がある。</li> </ul>

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	根室管内 別海町
取組事項（テーマ）	スタートカリキュラムの作成や改善を図る研修動画の作成
地域の実情と取組のねらい	<p>本町では、野付幼稚園及び野付小学校において、非認知的能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を重視したスタートカリキュラムを作成し、幼小連携の充実に取り組んだ。本年度は、野付幼稚園及び野付小学校の実践を参考として、町内全小学校においてスタートカリキュラムの作成や改善を図ることをねらいとし、研修動画を作成した。</p>
取組内容	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 60%;">  <p style="text-align: center;">【小学校教員による説明】</p> <p>研修動画は、校内研修等での活用を想定し、3部構成で作成した。タイトルは「保幼小連携を語る」として、説明は、野付幼稚園及び野付小学校において、スタートカリキュラムを中心となって作成した教諭が担当した。</p> <p>第1部では幼稚園側の取組を中心とした内容、第2部では小学校側の取組を中心とした内容とし、それぞれの立場でどのような工夫や配慮が必要かを明らかにした。また、第3部では「アフタートーク」として、幼小の連携・協働の利点や難しさなどについて、率直な意見交換を通じ、普段からの幼小の連携や往来を基盤に、それぞれの保育・教育の実践や児童の実態を捉えることの大切さが感じ取ることができる内容をねらいとして編集した。</p> </div> <div style="width: 35%; text-align: center;">  <p>研修動画は こちらから</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p style="text-align: center;">【幼稚園教諭と小学校教諭の意見交換】</p> </div>
取組に主として携わった者(所属/人数)	町教育委員会指導室(指導主幹2名、指導参事1名)、町教育委員会学校教育課(課長1名、教育支援担当主幹1名、教育支援担当主任1名)、小学校(幼小連携担当教諭1名)、幼稚園(幼小連携担当教諭1名)計8名
成果・課題	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員が気軽にICTを活用し、視聴できるようにしたことにより、町内の教職員がスタートカリキュラムの作成や改善に関わる具体的な取組の在り方について、理解を深めることができた。</li> </ul> <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本年度は、感染症拡大防止措置により、幼小連携に関する町内全体の集合研修を行うことができず、質疑応答の機会が設けられなかったことから、メール等で質問を受けることができるようにするなど、動画による研修受講者の理解を補足する体制を整備し、幼小連携の一層の理解につなげる必要がある。</li> </ul>

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	根室管内 標津町
取組事項（テーマ）	幼児教育施設と小・中学校の教員交流「コラボ授業」
地域の実情と取組のねらい	<p>本町は2地区にそれぞれ幼児教育施設と小学校・中学校が隣接しており、幼児教育施設と小・中学校の連携に適した立地環境にある。それぞれの地区に「園小中一貫教育推進協議会」があり、子ども理解と学習指導を深めることを目的として、校種をこえて授業をつくる「コラボ授業」を実施している。</p>
取組内容	<p>【コラボ授業について】</p> <p>幼児教育施設と小・中学校の教職員が協働して授業に関わることを通して、「一貫教育でめざす子どもの姿」の育成に向けた支援の在り方を具体的に共有し、教育活動の連続性を踏まえた学びの環境を具体化するために実施している。</p> <p>「コラボ授業グループ」のリーダーが主となり指導計画を立て、チームで協議し授業を実施するとともに、チーム全員が幼児と関わるようにする。</p> <p>授業を受ける幼児は「いつもと違う先生」にも教わることを通して、多くの刺激を得ることができる。</p> <p>【川北認定こども園での実践例】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ねらい <ul style="list-style-type: none"> <li>英語遊びを楽しむ中で、園・小・中の教員とのふれあいを通して、英語と日本語の違いに慣れ親しむ。</li> </ul> </li> <li>指導者・対象園児 <ul style="list-style-type: none"> <li>指導者：T1…園2名（担任含む） T2…小学校3名、 中学校の外国語担当教諭1名</li> <li>4歳児学級11名</li> </ul> </li> <li>活動内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>英語であいさつ、自己紹介、動物の名前と鳴き声の表現（絵カード使用）</li> <li>色の発音、色カード引っ越しゲーム</li> <li>英語の歌のダンス、輪になって教員も参加</li> <li>幼児の質問、お礼の言葉</li> </ul> </li> <li>協議内容から <ul style="list-style-type: none"> <li>幼児が英語に親しみ、楽しく発音している様子が見られた。</li> <li>園・小・中の教員の協働意識が高まった。</li> </ul> </li> </ol>
取組に主として携わった者(所属/人数)	<p>標津地区・川北地区園小中一貫教育推進協議会</p> <p>※コラボ授業は1グループ6名程度で組織し企画、授業実践、研究協議を行っている。授業は幼児教育施設と小・中学校で実施している。園の教員が中学校のゲストティーチャーとなることもある。</p>
成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校種をこえて教職員が授業づくりに携わることにより、異校種理解を深めることができた。</li> <li>「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」に対する正しい理解が、小・中学校の教職員に定着してきた。</li> <li>幼児教育施設の教職員は、小学校までに身に付けるべき生活指導の必要性や中学校終了時の生徒の姿をイメージするきっかけとなった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小・中学校に対し、幼児教育施設における「遊びを通して育てる」方針の理解を一層深める必要がある。</li> <li>コラボ授業を計画的に行い、交流の活性化を図り、より円滑な幼児教育施設と小・中学校の連携、引継ぎ、接続を進める必要がある。</li> </ul>



【英語で動物の鳴き声を言う】



【英語の歌で楽しくダンス】

## 地域の実情に即した幼小連携・接続の取組について

管内・市町村	根室管内 羅臼町										
取組事項（テーマ）	幼稚園と小学校が協働で作成するスタートカリキュラム										
地域の実情と取組のねらい	<p>羅臼町春松地区の幼児教育施設と小学校は、一体型の施設となっており、幼児教育施設と小学校の連携が容易にできる条件にある。このことから、幼児と児童の交流はもとより、教職員が互いに保育や授業を参観し、幼児・児童の成長について、互いに協力しながら見守ることができている。幼小の接続を一層円滑にするために協働でスタートカリキュラムを策定した。</p>										
取組内容	<p><b>【合同研修会の実施】</b></p> <p>幼児教育施設と小学校の教職員による合同研修会を実施し、生活科の授業を幼児教育施設の教職員の意見を参考にしながら計画した。</p> <p>指導案検討は、幼児教育施設の教職員も参加し、幼児教育施設での学びを生かした授業になるよう、協議を行った。</p> <p>また、幼児教育施設及び小学校の互いの授業を参観し、放課後の協議の中で、幼児及び児童の発達や学びについて話し合い、生活科の授業づくりに反映させた。</p> <table border="1" data-bbox="464 1070 1434 1339"> <tr> <td>10月前半</td> <td>単元「きせつとなかよし ふゆ」について、教科書や指導計画を中心に幼児教育施設内で協議</td> </tr> <tr> <td>10月後半</td> <td>幼児教育施設の教職員と第1学年担任で単元の流れ、指導計画を作成</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>第1回 指導案検討（幼児教育施設と小学校の教職員で）</td> </tr> <tr> <td>12月前半</td> <td>第2回 指導案検討（幼児教育施設と小学校の教職員で）</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>第1学年 生活科授業研（授業後に事後研を実施）</td> </tr> </table> <p><b>【生活科を中心としたスタートカリキュラムの作成】</b></p> <p>合同研修会で行った生活科の授業を生かし、スタートカリキュラムを作成した。作成する際は、幼児教育施設の教職員と協働して作成した。合同研修会でお互いの授業を見たり、共に生活科の授業づくりを行ったりしたことにより、幼児期に身に付けたことを生かしながら教科等への学びにつなげるよう、カリキュラムを編成することができた。</p>	10月前半	単元「きせつとなかよし ふゆ」について、教科書や指導計画を中心に幼児教育施設内で協議	10月後半	幼児教育施設の教職員と第1学年担任で単元の流れ、指導計画を作成	11月	第1回 指導案検討（幼児教育施設と小学校の教職員で）	12月前半	第2回 指導案検討（幼児教育施設と小学校の教職員で）	1月	第1学年 生活科授業研（授業後に事後研を実施）
10月前半	単元「きせつとなかよし ふゆ」について、教科書や指導計画を中心に幼児教育施設内で協議										
10月後半	幼児教育施設の教職員と第1学年担任で単元の流れ、指導計画を作成										
11月	第1回 指導案検討（幼児教育施設と小学校の教職員で）										
12月前半	第2回 指導案検討（幼児教育施設と小学校の教職員で）										
1月	第1学年 生活科授業研（授業後に事後研を実施）										
取組に主として携わった者（所属/人数）	<p>小学校（教頭、教務主任、第1学年担任、低学年教員）</p> <p>幼稚園（園長、副園長、各学年担任）</p>										
成果・課題	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合同研修会において春松地区の幼児及び児童の課題を共有したことにより、実態に即したスタートカリキュラムを作成することができた。</li> <li>・幼児期の経験を踏まえ、合同で生活科の授業づくりを行ったり、スタートカリキュラムを作成したりしたことにより、一層連続性のある学びにつなげることができた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育施設と小学校が協働して作成したスタートカリキュラムについて、各種調査結果や学校評価アンケート等の分析や合同研修会等による検証など、年間を通して計画的に実施し、検証改善サイクルを確立する必要がある。</li> </ul>										



【第2回指導案検討の様子】



【第1学年の授業参観】